

平成23年12月11日
今期最後のベストショット



H23. 12. 11 奈多グラウンド 平成23年度優勝決定戦 奈多サンデーズ 対 三苦三球会戦
最終回に奇跡的な逆転劇で三苦三球会を下した奈多サンデーズによる歓喜の田中孝幹監督胴上げ。
(写真：記録部長 新町ウインズ 早田主大)

奈多グラウンド

| | | | | | |
|---------|---------------|---|--------|----|----|
| 奈多サンデーズ | 0 1 0 0 0 0 2 | 3 | 勝投手：江口 | HR | なし |
| 三苦三球会 | 2 0 0 0 0 0 0 | 2 | 負投手：吉留 | HR | なし |

リーグ戦を終えてお互い12勝1敗。

平成23年度の和白リーグは優勝決定戦を行うこととなった。

先攻は、奈多サンデーズ。初回先頭の長浜一平選手が幸先良くレフト前ヒットで出塁すると、2番木下隆弘選手がしっかりと送りバント。3番田中俊弘選手が四球を選び一死一・二塁の場面で4番八島久徳選手が放った打球はレフト前に落ちるかと思われたが、三球会澤田剛遊撃手が後ろ向きでナイスキャッチ。飛び出した二塁走者長浜選手が戻れずダブルプレーとなり初回の攻撃を終えた。守りでリズムを作った三苦三球会は、二死から3番塚太一選手が四球を選び、盗塁で二塁に進むと、先ほど好プレーをみせた4番澤田選手が打った左打者特有のレフト線へ切れていく打球を、サンデーズ荒口健二左翼手が懸命に追うも及ばず、タイムリー三塁打となる。さらに5番永吉真也選手の三塁線への内野安打で追加点を奪い、試合の主導権を握ったかに思われた。しかし先制点を奪われたサンデーズは、二回表先頭の5番野々下利生久選手がセカンド内野安打で出塁すると、二死二塁から8番野田俊憲選手がセンター前にタイムリーヒットを放つ。さらに9番江口宏之選手のライト前で一・三塁とするも1番長浜選手が倒れ1点止まり。四回表サンデーズは、6番塚本浩二選手が四球で出塁しW.Pで二進すると、二死から先ほどタイムリーを放った野田選手が、まともやセンター前ヒット。しかしこれを三球会濱口裕也中堅手が本塁へ好返球。藤澤康隆捕手の堅固なブロックもあり、二塁走者がタッチアウトで同点の機会を逃した。五回表サンデーズは、先頭の9番江口選手が四球で出塁すると、1番長浜選手とのバスターエンドランがレフト線を襲う。しかしこれを三球会小倉圭太左翼手がギリギリで追い付きダイレクトキャッチ。戻れない江口選手を刺して、この試合二つ目のダブルプレー。六回表サンデーズは、先頭の4番八島選手がレフト前で出塁すると、一死二塁で6番塚本選手の何でもなしショートフライを澤田選手がエラー。7番荒口選手の送りバントで二死二・三塁として打順は三度（みたび）8番野田選手へ。一打逆転のチャンスだったが、ここは三球会エース吉留隆久投手が踏ん張りサードフライに打ち取る。三・四・五回と3人ずつ攻撃を抑えられていた三苦三球会は、六回裏先頭の3番塚太一選手がライト前ヒットで出塁するも、4・5番が簡単に打ち上げランナーを進められず、6番

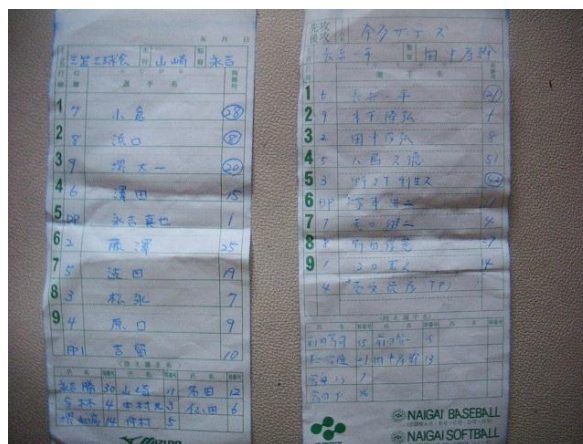
藤澤選手のライナーも長浜遊撃手のグラブに収まり、両チーム3回以降無得点で1点差のまま最終七回を迎えた。三苦三球会はこの回を抑えれば優勝。サンデーズは先頭9番江口選手がショートフライ、続く1番長浜選手がショートゴロで二死走者なし。しかし、ここでサンデーズ江口投手は味方を信じて投球練習を開始。誰もがこのまま三球会が勝利するかと思われたが、今年首位打者を獲得した2番木下選手が3-2からの際どい球を見極めしぶとく四球で出塁すると、本塁打・打点王を獲得した3番田中選手がライト前ヒットで続き、一・三塁として望みを4番八島選手に託す。一打同点の場面で八島選手が放った打球はピッチャーの頭を越える平凡ながら微妙なショートバウンド。これをショート澤田選手が捕って投げれば試合終了だったが、まさかの後逸。土壇場で奈多サンデーズが同点に追いついた。さらに続くは6月26日のリーグ戦で吉留投手から特大のHRを2本放っている5番野々下選手。ではあったが、打球はボテボテのセカンドゴロ。しかし強い打球を警戒して深めに守っていたが原口剛二塁手が足を滑らせ、これをエラー。まさか、まさかの逆転を許してしまった。

その裏、何とか再逆転したい三球会であったが、味方を信じた奈多サンデーズのエース江口投手が立ちはだかる。先頭打者を三振、続いてサードファールフライ。二死として、最後はピッチャーフライ。平成23年度和白リーグのウイニングボールを江口投手が自らの手で掴みゲームセットとなった。奈多サンデーズが2年ぶり13回目の優勝を決め、寒空の下、マウンド上に奈多サンデーズナインの歓喜の輪が咲き乱れた。

(記事：記録部 早田主大)



両監督の握手で熱戦の火蓋が開く。



優勝を争う両チームのスターティングメンバー。



三球会の先発は不動のエース吉留隆久投手。FPで出場。



一回表、先頭打者として痛烈なレフト前で出塁するサンデーズ1番長浜一平選手。



一回表、レフト前に落ちるかと思われた打球を後ろ向きで捕る三球会澤田剛遊撃手。



奈多サンデーズの先発は、リーグ最終戦から調子を上げてきたエース江口宏之投手。



一回裏、二死から四球で出塁して果敢に盗塁を決める三球会3番堺太一選手。



一回裏、三球会澤田選手の切れていく打球を懸命に追うサンデーズ荒口健二左翼手。



一回裏、先制の三塁打を放った三球会澤田剛選手。三塁上でガッツポーズ。



一回裏、追加点となるサードへの内野安打を放つ三球会5番永吉真也選手。



二回表、上手く送球をすくい上げる三球会松永達彦一塁手。



先制された直後の二回表、二死二塁からサンデーズ8番野田俊憲選手がセンター前にタイムリーを放つ。



二回表、サンデーズ野田選手のタイムリーでホームインする野々下利生久選手。これで1点差になるも、後続断たれる。



三回表、三球会はサンデーズ2番からの好打順も三者凡退に抑える。ここからノっていくか？



四回表、サンデーズ野田選手の本日2本目のヒットで二塁走者塚本浩二選手がホームを突く。



ホーム直前、三球会藤澤康隆選手のブロックで、サンデーズに同点のホームを踏ませない。



四回表、三球会澤田選手に負けじと、背走しながらフライをキャッチするサンデーズ八島三塁手。



奈多サンデーズは、この大事な一戦を無失策で戦った。



六回表、先頭打者でレフト前を放つサンデーズ八島選手。三塁まで進むも三球会吉留投手があと一步を阻む。



六回表、それまで堅守を誇っていた三球会守備陣に綻び(ほころび)が見え始める。



六回裏一死、右中間への深い当たりをキャッチし、堺選手を一塁釘付けにするサンデーズ野田俊憲中堅手。



六回裏二死、抜ければ左中間への長打となっていたであろう三球会藤澤選手の打球を捕るサンデーズ長浜遊撃手。



七回表、二死からしぶとく四球を選ぶ首位打者と出塁率1位を獲得したサンデーズ2番木下隆弘選手。



サンデーズ3番田中俊弘選手は本塁打・打点王の意地でライト前を放つ。



サンデーズ3番田中俊弘選手のライト前で三塁を陥れる木下選手。二死一・三塁となる。



4番八島選手の打球は三球会澤田遊撃手のエラーを誘い同点。雄叫びを上げホームインした木下選手。



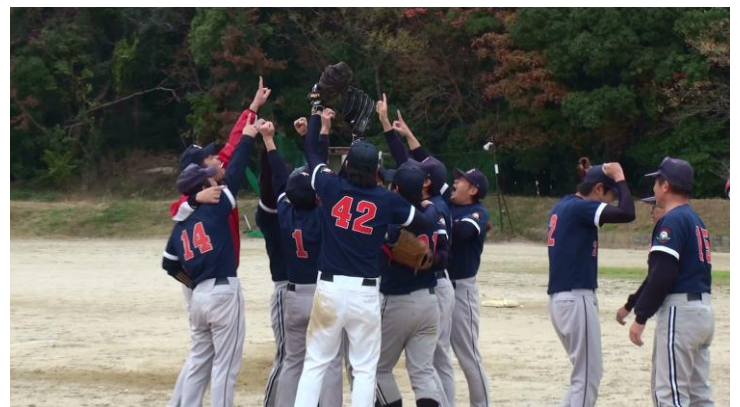
同点に沸く奈多サンデーズベンチ。興奮は最高潮に！



そして、5番野々下利生久選手の当たりも三球会原口二塁手のエラーを誘い、奇跡の逆転に成功！！



七回表に逆転して、その裏最後の打者を打ち取り、抱き合う奈多サンデーズ江口宏之ー田中俊弘バッテリー。



マウンド上で人差し指をかざす奈多サンデーズナイン。



最後の挨拶で互いの健闘を称え合う両チーム。



まずは、田中孝幹監督の胴上げ。3回宙に舞った。



続いて、富安巧奈多サンデーズ会長が宙に舞った。

第25週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

寒くとも風も穏やかな12月11日(日)午前9時~奈多グラウンドにて平成23年度優勝決定戦(プレーオフ)が行われ、多数のWSL選手の見守る中、共にリーグ戦を12勝1敗で終えた奈多サンデーズと三苦三球会が熱い火花を散らしました。

試合前ホームベース上には大きな水たまりが有りましたが、執行部の方々、運営委員の方々、その他各チームの方々の手で水抜きと土入れがなされ、無事に試合にこぎ着くことができました。この場を借りてプレーオフに出場した選手を代表してお礼を言わせて頂きます。

戦前、首位打者・本塁打王・打点王を揃え、チーム打率.410(第2位)、得点133(第1位)、本塁打26(第1位)のサンデーズ重量打線に対し、防御率2.01、被安打58、失点31と全てで第2位の三球会投手・守備陣がどうしのぐか?という構図が予想されました。

さて試合の方ですが、サンデーズ江口・三球会吉留の両エースピッチャーの投げ合いで幕を開けました。初回のチャンスをWプレーで棒に振ったサンデーズに対し、三球会は二死から四球で得た最初のチャンスを4番澤田選手の左適時三塁打で掴むと、続く5番永吉選手はサードを守る私のグラブを弾く内野安打で2点目。この当たりは捕りたかったですね。三球会は防御率2.01ですから、あと1点取ればデータ上では勝ちということでしたが、その後サンデーズ江口投手に抑え込まれてしまいます。早く追いつきたいサンデーズは、二回表二死から8番野田選手のタイムリーで1点差に追いつきます。野田選手はサンデーズのスコアラーですし、データや各選手の特徴についてかなり詳しいです。そういう所が活きたんだと思います。この試合はタイムリーにはなりませんでしたがもう一本チャンスでヒットを放っていますし、何よりその広い守備でかなり試合に貢献しました。その後サンデーズは毎回のように塁上を賑わせますが、最後の1本が出ません。というより、三球会吉留投手・守備陣が踏ん張っていました。中でも四回表の野田選手2本目のセンター前をセンター濱口選手の強肩とキャッチャー藤澤選手のナイスブロックで阻んだプレーと、五回表のレフト線を襲うサンデーズ長浜選手のバスターエ

ンドランの打球を逆シングルで捕ったレフト小倉選手のプレーは光っていました。守備のいい三球会でしたが、攻撃の方はいつもの厚みを感じませんでした。簡単に打ち上げたり、若いカウントで打ち急いだりと……。もっとバントやピッチャーに球数投げさせれば得点シーンを演出出来たのにとと思います。まあ、それをさせないように守備陣形や投球を工夫していたのですが。投手戦ということもあり、試合も七回まで行く非常に引き締まった内容でしたが、優勝がちらついて来た六回あたりから三球会の守備陣にもミスが出てきました。それもあってか、サンデーズベンチには慌てる雰囲気は全くとは言いませんが無かったですね。それどころか、二死を取られてからも「ここから何とかしてきた」という思いの方が強くなってきました。それを象徴したのが、江口投手が始めた七回裏に備える投球練習でした。そして実際に現実化します。四球・ライト前安打として二死一・三塁で4番の私。最高の形で回ってきましたが、落ち着いていました。甘めのストレートを2つ見逃して追い込まれましたが、不思議とその球ではないと思っていました。2-2からの5球目打った打球はショートゴロ。この回2つ捌いている澤田選手の元へ転がったボールは何故かセンターへ抜けました。後はもう一つ三球会にエラーが出て逆転し、その裏を抑えた江口投手が完投で優勝を掴んでくれました。最後に江口投手にフライが上がってウイニングボールを掴んだのもサンデーズのために献身的に働いてくれていた彼へのご褒美のように思えました。

さて、リーグ1年を振り返って、この2チームが優勝決定戦に進んだわけですが、それを再確認することがありました。

1つは、優勝した奈多サンデーズですが、冒頭にも書いた試合前のホームベース上の大きな水たまりに対して、サンデーズのいつもベンチで声を出してくれている諸先輩方がまっ先にタオルやスポンジ、ちりとりなどで水抜きをやり始めてくれたことです。これを見て私は手伝おうかと思いましたが、だべっているメンバーに声をかけ、試合前のアップを優先しました。この姿勢に報いようと思ったからです。それは他のメンバーにも伝わったようで、それが優勝へ繋がったのかもしれない。やはり和自リーグを支えてきた諸先輩方は偉大です。

もう一つは三球会のチーム内ルールの徹底です。「例え主力選手でも審判に来なかったり、集合時間に連絡もなしに遅れては、スタメンで使わない。」

このルールを徹底してから、きちんと統制のとれたチームとして機能し始めたそうです。一見当たり前のようですが、凄いことだと思いましたが、私自身も省みる点が非常に多くて、恥ずかしくなります。

これだけがこの2チームが勝ち進んだ理由ではありませんが、私個人はそう思いました。

長くなりましたが、この一年編集委員長として毎週水曜日朝にHPをアップ、出来るだけ多くの選手と名前を知って貰うことを念頭に手探りで進めて来ましたが、無事に第25週目最終試合のアップも完了しました。

毎週試合中の写真を撮って、レポートをしたためて送って下さった各チームの編集委員の皆様、二人三脚？いや三人四脚でHP作成をさせていただいたウインズの早田記録部長と桐島前編集委員長、そして拙いHP管理ながら毎日のようにアクセスして見ていただいたWSLの皆様、またその関係者の方々、WSL運営していただいている執行部の皆様、そして、和自地域の皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

また来年も毎週水曜日朝アップ目指して顔晴りますので、宜しく願います。

編集委員長 奈多サンデーズ 八島久徳